



IUFRO-J NEWS

No. 109(2013.7) —

IUFRO PAPM2013 報告

筑波大学生命環境系 伊藤太一

1. はじめに

IUFRO は9つの部門に分かれ、第6部門は表-1のように「森林・林業の社会的側面」で、10の研究グループがある。今回報告する会議は「6.04 自然保護と保護地域」グループのリーダー、ブラジルのサンパウロ大学森林学科のテレサ・マグロ先生が中心となり、4月21日から26日にかけて、パラナ州のフォスドイグアス市で開催された。会議のタイトルは“Protected Areas and Place Making”である。前半の「保護地域」というのは世界遺産にもなっているイグアスの滝のある町で開催するということで理解できたが、後半の「場所造り」というのは何だろうと考えながら、片道40時間を掛けて

てトロントとサンパウロ経由でフォスドイグアスに向かった。

2. イタイプダムによって造られた国際保護地域とイグアスの滝国際公園

フォスドイグアス市の西側はパラナ川を挟んでパラグアイと接している。南側はイグアス川でアルゼンチンと接している。すなわち、パラナ川とイグアス川の合流地点は3ヶ国の国境となっている。このイグアス川上流にイグアスの滝(写真-1)があるようにパラナ川の上流には世界最大と言われるイタイプダムがある。このダムは1973年のブラジルとパラグアイの国際条約にもとづいて設立された“Itaipu Binational”という組織が管理し、広大なダム湖とその周辺の植林した空間が保護地

表-1 IUFRO 第6部門の研究グループ

6.00.00 - Social Aspects of Forests and Forestry
6.01.00 - Forest recreation, landscape and nature conservation
6.02.00 - Landscape planning and management
6.03.00 - Nature-based tourism
6.04.00 - Nature conservation and protected areas
6.05.00 - Forest ethics
6.06.00 - Forest, trees and human health and well-being
6.07.00 - Urban forestry
6.08.00 - Gender and forestry
6.08.01 - Gender research in forestry
6.08.02 - Education, gender and forestry
6.09.00 - Improving education and further education in forestry
6.10.00 - Rural development



写真-1 ブラジル側からのイグアスの滝(対岸はアルゼンチン側)

域 (写真-2) となっている。その保護地域の中心施設ベラヴィスタ生物保護区(Bela Vista Biological Refuge)のビジターセンター (写真-3) で100余名が参加して会議が開催された。



写真-2 イタイプダム湖



写真-3 ベラヴィスタ生物保護区のビジターセンター (草屋根の会場)

3. プログラム概要

5日間の会議は会議場でのセッションと3箇所へのフィールドトリップで二分されている。会議前夜20日にイグアスの滝の縁にあるレストランでのレセプションではコッチIUFRO会長とメネセス保護地域ディレクターが祝辞を述べた。22日会議初日のオープニング(写真-4)では、マグロ先生の開会の辞に続いてブラジルとアルゼンチンのそれぞれのイグアスの滝国立公園園長が講演し、それに続く基調講演では、米国森林局ダニエル・ウィリアムズ氏が“Making Sense of Place”というタイトルで、「空間の経験」や「トポフィリア」などの訳書もある地理学者イーファー・トゥアンの概念から「場所造り」の意味を説明した。このようにイタイプダムの造られた保護地域にある会議場で、「場所造り」に

ついて説明されて、ようやく疑問が解消した。

この会議のユニークなのは英語のセッションとポルトガル語のセッションが並行していた点だ(表-2)。日本人と同様ブラジル人も英語があまり得意ではないためこのような配慮がなされたようだ。一方で、アルゼンチン側のイグアスの滝国立公園の園長はスペイン語でスピーチをしたが、ブラジル人は問題なく理解するようである。

22日の半日のフィールドトリップはイタイプダム周辺施設の見学であるが、高さ100m以上のダムによって遮られたパラナ川を迂回する17kmの魚道が印象的であった。そこはカヌー競技の場としても活用されていた。会議場周辺には苗畑や動物園、動物病院などもあり、子供たちが環境教育のために訪れていた。このイタイプダムの人造保護地域とイグアスの滝国立公園は水域でつながっているだけではなく、陸域でも森林帯でつながっている(写真-5)。すなわち、水と森のコリドーである。なお、アルゼンチン側のコリドーについては、SATOYAMAイニシアティブのウェブサイトで紹介されている。



写真-4 マグロ先生による開催の辞

表-2 セッションの構成

Nature-Based Recreation and Tourism
Human-Wildlife Conflict Management
Private Sector on Nature Conservation
Florestas Urbanas e Qualidade de Vida (language : Portuguese)
Urban Forestry, Health and Well Being
Community Values in Conservation
Conservação da Natureza e Desenvolvimento Rural (language : Portuguese)
Conservation and Sustainable Rural Development in Contested Landscapes : International Perspectives
Boosting Connectivity : Trans-boundary Parks and Corridors

23日にセッション終了後の晩餐会は再びイグアスの滝レストランに移動し、食後は満月のイグアスの滝を訪れるという演出であった。このため宿に戻ると午前1時になっていたが、翌23日は早朝に集合して国境をわたりアルゼンチン側のイグアスの滝を訪れ、共同管理を実体験することができた。それぞれ、フォスドイグアスとプエルトイグアスがゲートウェイシティとなり、公園内には高級ホテルが1軒ずつという構成である。また、入園料は年齢や居住地などで細かく分かれ、宿泊施設やツアーはコンセッションが経営していた。入園料にはシャトルバス（ブラジル）や森林鉄道（アルゼンチン）が含まれ、一般車は公園入り口までとなっていた。このような共同管理は、1990年にカナダで開催されたIUFROのエクスカージョンで訪れたナイアガラの滝と



写真-5 ブラジル側イグアスの滝国立公園長によるコリドーの説明（左上がイタイバダム湖、左下がイグアスの滝、右側中央部を流れるのがイグアス川、その上部の濃い部分がブラジル側国立公園地域）

は対照的であった。なお、このエクスカージョンのルームメイトがニルス（現 IUFRO 会長）であった。

4. おわりに

地球の裏側ということもあり、日本どころかアジアからの唯一の参加者であったが、発表やフィールドトリップに限らず、会議の運営においても多くを学ぶことができた。サンパウロから1100km離れたフォスドイグアスにおける、マグロ先生を中心とするサンパウロ大学森林学科スタッフ（写真-6）のパワーには圧倒された。また、会議全般においてにおいて日系の方を含む女性の活躍ぶりも顕著であった。このパワーが1700箇所総面積150万平方キロメートルのブラジルの保護地域をしっかりと管理していくに違いない。また、2019年にパラナ州の州都クリチーバで開催されるIUFRO世界大会の成功も確信させた。



写真-6 アルゼンチン側イグアスの滝における会議スタッフ

IUFRO ブナ会議報告

森林総合研究所植物生態研究領域 松井哲哉

森林総合研究所北海道支所 北村系子

2013年6月2日から9日にかけて開催された、IUFROのサテライト会議である“Primeval Beech Forests”に参加した。この会議はスイスのWSL (Swiss Federal Institute for Forest, Snow and Landscape Research) の主催により、ウクライナの西にある都市、

L'viv (リヴィウ) のウクライナ国立森林大学で開催され、20カ国から160名のブナの研究者が参加した。スイスのWSLはウクライナと共同で10年以上カルパチア山脈のブナ林の調査を行っており、今回はその縁で会議を主催したとのことで、事務局はスイスとウクライナの

混成チームで構成されていた。

初日のはじめにヨーロッパ全体と特にウクライナのブナ林の解説があったあと、個々の研究発表が開始された。発表は口頭とポスターに区分され、内容はヨーロッパブナ林に関するものが中心で、菌類、攪乱と昆虫の多様性、蘚苔類の多様性、攪乱・枯死木と菌類・蘚苔類・昆虫の多様性との関係、土壌中菌類のモニタリング事例、ブナ林の構造と動態・更新、炭素蓄積、年輪解析、森林管理と生物多様性、ブナ林の将来の管理や保全政策について、など多岐にわたった。口頭発表会場は1つであったため、参加者全員による質疑応答が行われた。ポスター発表は基本的には3日間貼っておくことが可能なシステムであったため、ポスターのコアタイムのみならず、休憩時間およびコアタイム以外の日時でも自由に閲覧することが可能であった。

松井は日本のブナ林の温暖化影響予測と優占種の交替に関する発表を口頭で行った。日本の植生を知らない参加者のために、植生帯の解説をしたうえで温暖化影響予測の結果を説明した。北村は、日本のブナ北限地帯における遺伝的多様性の低下についてポスター発表を行った。アジア人が3名（日本人）のみだったために顔を覚えやすかったことも幸いしたのか、発表時だけでなくその後も数人から質問やコメントをもらった。

全体会合は3日間で終わり、その後一日半のワークショップ参加と、エクスカーション参加者にわかれた。ワークショップではヨーロッパブナ林の保全に関する議論がなされたと聞いたが、詳細は不明である。我々は4日目から2泊3日でヨーロッパ最大のブナ原生林である、ウクライナ西部、トランスカルパチア地域にあるUholka ブナ林を尋ねるエクスカーションに参加した。カルパチア山脈はポーランド、スロバキア、ハンガリー、

ウクライナ、ルーマニアにまたがっている山脈で、ウクライナ西部はこれらの国々と国境を接しており、トランスカルパチアと呼ばれる。この地域は昔からアクセスが厳しい地域であり、なおかつ歴史的に領主や貴族の狩場として保護されてきたために、ブナの原生林が伐採されずに残った（写真-1, 2）。かつてモンゴル帝国も進軍した峠を越えて向かったトランスカルパチア地域の原生林は、14,600ヘクタールあり、Carpathian Biosphere Reserve (CBR: 53,630ヘクタール)の一部として保護されている。この原生林はヨーロッパ最大のブナ原生林である。ヨーロッパのその他の原生林は50-100ヘクタールであることから、その規模が理解できる。また2007年には、CBRを含むウクライナとスロバキアにまたがる地域(29,278ヘクタール)およびドイツのブナ林(4,391ヘクタール)を統合して、「カルパチア山脈の原生ブナ林群とドイツの古代ブナ林群 (Primeval Beech Forests of the Carpathians and the Ancient Beech Forests of Germany)」としてユネスコの世界自然遺産に認定された（参考までに、白神山地の世界自然遺産地域は16,971ヘクタールである）。

エクスカーション初日は悪路をバスで丸一日走ってウクライナ西部のトランスカルパチア地域に到着し、二日目ようやくブナ林内部を歩くことができた。4-5個の小班に分かれてそれぞれ別々のコースを進んだ。筆者は5時間のコースを選び、10数名の参加者とガイドとともに森を歩いた。印象としては、ブナが太く、樹高が大きいことと、林内の至る所でブナが更新しており非常にブナが優勢であることである（写真-3, 4）。ただ、ブナの更新密度は中央ヨーロッパのヨーロッパブナ林に比べて低い。ブナの分布標高は400~1,350mである。この森林でWSLとウクライナの共同研究チー



写真-1 Uholkaのブナ林内部（斜面中部）



写真-2 Uholkaのブナ林内部（斜面上部）

ムは、2010年に面積10,282ヘクタールの範囲での353個の円形プロット（半径12.62m、面積500m²）によるインベントリ調査と、ブナ林のコア地域での方形区調査（10ヘクタール）を行い、膨大なデータの蓄積を行っている。インベントリ調査によれば、ブナの優占度は高く、断面積合計割合では97%である。また胸高直径6センチ以上の樹種は17種類6,779本で、多い順に *Fagus sylvatica* (6,531本)、*Carpinus betulus* (104本)、*Acer pseudoplatanus* (46本)、*Corylus avellana* (19本)、*Abies alba* (16本)、*Acer platanoides* (14本) などであった (Commarmot *et al.* 2013)。三日目は同じ道のりをまた丸一日悪路を辿ってリヴィウへ到着し、全日程が終了した。



写真-3 実生の生育状況

次回のブナの会議開催計画は未定とのことであるが、世界中のブナ研究者の分野横断的な講演を聴くことができ、世界中の貴重なブナの森を観察できるこの会議には、いつかまた参加したいと思う。

参考文献

Commarmot B., Brandli U.-B., Hamor F. & Lavnyy V. (eds.) 2013. *Inventory of the Largest Primeval Beech Forest in Europe. A Swiss-Ukrainian Scientific Adventure*. Birmensdorf, Swiss Federal Research Institute WSL; L'viv, Ukrainian National Forestry University; Rakhiv, Carpathian Biosphere Reserve. 69 pp. ISBN 978-3-905621-53-2.



写真-4 稚樹の生育状況

IUFRO 国際研究集会「第3回 IUFRO ラテンアメリカ会合 (IUFROLAT 2013)」参加報告

森林総合研究所 温暖化対応推進拠点 平田泰雅

I. はじめに

去る2013年6月12日から15日にかけて、IUFRO国際研究集会「第3回 IUFRO ラテンアメリカ会合 (IUFROLAT 2013)」が、コスタリカのサンホセ市クラウンプラザホテルにおいてCATIE（熱帯農業研究・高等教育センター）との共催で開催された。本研究集会は、1998年のバルディヴィア（チリ）、2006年のラ・セレナ（チリ）に引き続いて開催された会合であり、森林科学がラテンアメリカ及びカリブ地域における暮ら

し、環境、持続可能な開発にいかに関与するかを示すことを目的として開催された。特に、森林と生態系サービス、森林セクターの競争力とガバナンス、ランドスケープ管理を中心テーマとして、プログラムが構成された。

本会合には、ラテンアメリカ諸国を中心に、欧米、オーストラリアの研究者のほか、国際連合食糧農業機関 (FAO) や国際林業研究センター (CIFOR) など国際機関からの参加者、アジアからはマレーシアの森林研究

所、中国の森林科学アカデミーからの参加者が見られた。日本からは筆者と森林総合研究所 REDD 研究開発センターの Luis Vega 氏の 2 名の参加であった。全体では約 500 名の研究者、政策決定者などを迎えて盛大に開催された。

II. 研究集会の概要

1. 基調講演

本会合では、FAO、世界銀行、CIFOR、チリの森林研究技術センターからの 4 件の基調講演が行われた。

まず初日には、FAO の森林評価・管理・保全部長の Eduardo Mansur 氏が、「変化する局面における持続可能な森林管理の挑戦と機会」というタイトルで講演された。続いて 2 日目には世界銀行森林アドバイザーの Peter Dewees 氏による「森林と環境サービス、それらの住民及び貧困との関係」というタイトルでの講演が行われた。さらに 3 日目には、CIFOR センター長の Peter Holmgren 氏により「森林とランドスケープアプローチ：政策のための根拠の基礎の構築」、チリ森林研究技術センター長の Hans Grosse Werner 氏により「林業振興の安定した国の政策の成果：チリの事例」というタイトルでの講演が行われた（写真-1）。

基調講演では主に、森林政策と環境サービスに焦点を当てた講演が行われ、森林科学の現実の社会への応用に対する期待と責任を感じた。

2. 口頭発表

口頭発表は 8 つの会場でのパラレルセッションの形式で、7 つの時間枠に合計 53 セッションが組まれていた。このうち 3 つの会場では英語とスペイン語の同時通訳がついていた。各セッションは、座長によるセッションテーマの紹介に続き、基本的には 6 件の発表と

総合討論で構成されていた。全体で 297 件の発表がエントリーされていた。セッションテーマは林業に関するものから生態系サービス、アグロフォレストリーなど多様であり、筆者は「森林と生態系サービス：炭素」というセッションでパラグアイにおける REDD プラスのためのモニタリングについて発表した。REDD プラスに関しては、ほかにも現地での活動をもとにしたセッションが組まれており、関心の高さがうかがえた。

本会合ではセッション終了後に発表証明書を座長から手渡され（写真-2）、他の地域での会合ではない経験であった。

3. ポスターセッション

ポスターセッションには 249 件のエントリーがあり、口頭発表と同じく、テーマごとに 3 日間に分けてポスターセッションの時間が組まれていた。全体では 22 のテーマが設定されており、森林生態系と造林に関するテーマでは 50 件と最も多い発表件数であった。全体としてプロジェクトを紹介する発表が多く見られた。

ポスターセッションの発表はラテンアメリカからの参加者が中心ということもあって、ほとんどがスペイン語による発表であり、他地域からの参加者には発表内容を理解することは難しかったが、全体としては多くの参加者がポスターセッションの会場を訪れており、盛会であった（写真-3）。

4. サイドイベント

本研究集会では、IUFRO、森林法学会（AIDEFOR）、CIFOR による 3 つのサイドイベントが開催された。

IUFRO 主催のイベントでは、「IUFRO における森林科学協力のドライバー：部会とタスクフォース」というタイトルで、IUFRO の組織と今後の展開についての話題提供があった。IUFRO 主催のイベントと平行して



写真-1



写真-2



写真-3

AIDEFOR による「森林科学による法の貢献」というタイトルのイベントが開催されていた。

最終日には、CIFOR 主催による「根拠に基づいた林業」というイベントが開催された。これは同日に行われた CIFOR センター長の Peter Holmgren 氏の基調講演を具体化する内容であった。

全体として、全ての口頭発表の後に開催されたにもかかわらずどの会場の盛況であり、各テーマに対する出席者の関心の高さがうかがえた。

5. 現地見学会

現地見学会は、あいにくの雨模様の天候の中、(1) 小規模所有者による天然林管理の挑戦、(2) 小規模所有者による人工林開発の挑戦、(3) 天然林の利用と保全に関する戦略強化のための天然林のモニタリング、(4) 多様な山岳地域でのランドスケープ森林管理、(5) 自然景観と文化的景観の探索、という5つの見学会が行われた。

筆者は天然林管理の現地見学会に参加した。現地では雨でぬかるんだ道をくまびしまで泥に埋まりながら進む、森林の保全と持続的開発を目標とする Fundecor という NGO が管理する 140ha の天然林を訪れ、担当者から説明を受けた。見学した天然林においては管理している森林全域において、胸高直径 50 cm 以上の立木全ての

樹種、胸高直径などが調査を行っており、それら全ての立木の位置を GPS で測位し、立木位置図が作成されていた。この天然林では 15 年を経営の単位としており、15 年たって胸高直径が 60 cm を超えたものについてのみ伐採するとのことであった。参加者からは、伐採する際のコストの問題や、15 年で 60 cm を超える立木がなくなってきた場合のことなど、雨の中にもかかわらず 1 時間近くにわたり様々な質問がなされ、丁寧な説明を受けた(写真-4)。霧もかかっており、森林全体の眺望がきかなかったのが残念であった。



写真-4

III. おわりに

今回初めてラテンアメリカでの IUFRO の国際研究集会に参加したが、言語の違いから普段情報を得ることの難しい地域の森林研究の状況を知ることが出来た。特に開催国のコスタリカが森林保全に関心が高いこともあり、ラテンアメリカでの森林保全のための熱心な取り組みを知ることが出来たことが大きな収穫であった。また、同地域での人脈が構築できたことも大きな成果であった。

なお、本会合は不定期のため次回の開催は決まっていない。

IUFRO-J 平成 25 年度機関代表会議

平成 25 年 3 月 27 日に岩手大学において、標記会議が開催されました。A 会員 11 機関、B 会員 4 機関の代

表と 2 名の IUFRO 役員の方に出席いただき、鈴木和夫議長の下で議事が進められました。以下では、代表会

議で審議、承認された議題の概要を報告します。なお会議開催に際して岩手大学の第124回日本森林学会大会運営委員会の皆様に大変お世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。

議題 1. 平成 24 年度会務報告

1. 一般会計

1) IUFRO-J News 発行

No.106 (2012.7)

- ・ IUFRO 国際研究集会「第2回 FORCOM2011 一次世代のための追求と新しい挑戦」開催報告
- ・ IUFRO タスクフォース「Forests for People」第1回国際会議に出席して
- ・「絶滅のおそれがある森林有用樹種の多国間および国境を越えた保全に関するアジア太平洋ワークショップ」参加報告
- ・ IUFRO-J 平成 24 年度機関代表会議

No.107 (2012.11)

- ・「IUFRO Unit 7.02.13 侵略的外来種と国際貿易」第3回研究集会開催報告
- ・ポルトガル・リスボンで開催された「2012 IUFRO ALL DIVISION 5 CONFERENCE」に参加して
- ・チェコ共和国で開催されたユフロ体細胞胚培養とその他の栄養繁殖技術 (Working Party 2.09.02) 国際集会の概要—メンデルが遺伝研究を行った修道院のあるブルノ市で—
- ・アジア・太平洋地域林業研究機関連合 (APAFRI) 第6回総会報告
- ・「第21回国際木材機械加工セミナー (IWMS-21)」
- ・ IUFRO カンファレンス「小規模林業とコミュニティに密着した林業の未来」(小規模林業部会 (3.08) とジェンダーと林業 (6.08) との共同開催)

No.108 (2013.3)

- ・ IUFRO RG3.03 国際ワークショップ「これからの森林・林業における労働科学的チャレンジ」開催報告
- ・ BIOCOMP2012(11th Pacific Rim Bio- Based

Composites Symposium) 開催報告

- ・ Global Forest Information Service (GFIS (ジフィス)) の紹介
- ・ IUFRO-J 研究集会事務局・参加助成実績
- ・ 2014 IUFRO World Congress 関連情報
- ・ 事務局からのお知らせ

会誌送付会員 (平成 25 年 2 月 28 日現在) の現状

A 会員: 23 機関 584 名 (会員数前年度比: 19 人減)

B 会員: 13 機関 (会員数前年度比: 1 機関減, 5 人減)

C 会員: 25 名 (会員数前年度比: 2 人減)

賛助会員: なし

2) 理事会出席助成

なし

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

事務局: (60 万円)

福田 健二 (東京大学) 20 万円 (H24 年 6 月に延期となったため平成 24 年 4 月に送金)

IUFRO Unit 7.02.13 侵略的外来種と国際貿易

鈴木 滋彦 (静岡大学) 20 万円

BIOCOMP2012 (11th Pacific Rim Bio-Based Composites Symposium)

山田 容三 (名古屋大学大学院) 20 万円

IUFRO RG3.03 国際ワークショップ「これからの森林・林業における労働科学的チャレンジ」

参加: (10 万円)

大内 毅 (福岡教育大学) 10 万円

2012 IUFRO ALL DIVISION 5 CONFERENCE

4) IUFRO-J eNews

冊子で発行している J-News を補完し会員間の情報交換を進めるため、平成 19 (2007) 年 9 月より配信を開始した。

AB 会員の代表もしくは連絡員の方に配信。それ以外の機関会員の代表もしくは連絡員の方には、機関内の会員の方々に転送を依頼。

平成 24 年度は、下記、2 件を配信。

IUFRO-GFIS Training Workshop の案内。

2014 IUFRO World Congress 関連情報

5) 長期滞納会員の解消

複数年にわたり連絡が取れない方を退会とした。

2. 平成 24 年度役員

議長	鈴木 和夫 (森林総研)
監事	阿部 恭久 (日本大学)
	藤田 和幸 (元森林総研)
幹事	清野 嘉之 (森林総研)
	後藤 忠男 (森林総研)
主事	藤間 剛 (森林総研)

議題 2. 平成 24 年度会計決算報告

1. 一般会計 (平成 25 年 2 月 28 日現在)

【収入】

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,773,389	1,773,389	
会費 A 会員	600,000	516,000	
B 会員	69,000	32,000	
C 会員	28,000	18,000	
前年度未収分	120,000	88,000	H23 年度までの会費を H24 年度に払った団体・ 個人 (去年分を今年に)
前納分	1,000	1,000	H25 年度以降の会費を H24 年度に払った団体・ 個人 (来年分を今年に)
雑収入	1,000	135	利息
単年度収入小計	819,000	655,135	
合計	2,592,389	2,428,524	

【支出】

科目	予算	決算	備考
情報活動費	351,500	377,945	J-News 印刷 (No.106, 107, 108) 送料・通信費
内訳 J-News 103 印刷	100,000	92,358	
J-News 104 印刷	100,000	124,267	
J-News 105 印刷	100,000	121,327	
J-News 送料	50,000	38,320	11,740 (No.106), 14,270 (No.107), 12,310 (No.108)
通信費	1,500	1,673	封筒, 切手代
会議費	30,000	16,170	平成 24 年度機関代表 会議 (宇都宮大学)
旅費 役員会出席	300,000	0	理事会出席助成
雑費	10,000	8,770	2,520 (振り込み手 数料) 5,830 (会費 受領時送金手数料)
助成	700,000	700,000	事務局助成: 福田健二, 鈴木滋彦, 山田容三 参加: 大内毅
単年度支出小計	1,391,500	1,102,885	
次年度繰越	1,200,889	1,325,639	2/28
合計	2,592,389	2,428,524	

議題 3. 監査報告

平成 24 年度監査報告

平成 24 年度 IUFRO—J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 25 年 3 月 4 日

IUFRO-J 監事

日本大学 生物資源科学部

阿部 恭久 印

平成 24 年度監査報告

平成 24 年度 IUFRO—J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 25 年 3 月 12 日

IUFRO-J 監事

藤田 和幸 印

議題 4. 平成 25 年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

番号 (予定時期): 掲載記事に関する事務局案
No.109 (2013.7): 機関代表会議報告, 集会報告
No.110 (2013.11): 集会報告
No.111 (2014.3): 集会報告
各 750 部印刷し, 会員配布

PDF 版の提供: IUFRO-J News の PDF 版を希望する会員にはメールで配布いたします。

IUFRO および IUFRO-J の目的に添った内容で, 会員相互に広く共有すべき記事を掲載したいと考えています。積極的に事務局にご相談ください。

2) 役員会出席助成

IUFRO 役員の役員会出席に対し, 単年度一名あたり 15 万円を上限とする。

3) IUFRO 研究集会事務局・参加助成

参加助成: なし
事務局助成: 2 件

21st International Wood Machining Seminar

(第 21 回国際木材機械加工セミナー)

20 万円 (2013 年 8 月 4 日 ~ 7 日 つくば国際会議場)

IUFRO カンファレンス「小規模林業とコミュニティ林業の未来に向けて」

(3.08.00 小規模林業部会 (3.08) とジェンダーと林業 (6.08) との共同開催)

20 万円 (2013 年 9 月 8 日～13 日 九州大学)

助成事業の概要メモ

○助成申請は随時受け付けている。

○12 月末で集計し、選考委員会に諮り、助成対象を決定。

○応募の詳細は資料 4 参照。

○具体的内容

「IUFRO 関連集會事務局・参加」年間総額 50 万程度

事務局：20 万 / 件、

参加：10 万 / 件 目途 (発表は海外に限る、ただし世界大会を含まない。)

選考委員会 (現在、5 名で構成) で決定。

応募資格：会費を納入している会員に限る。

助成を受けた者のオブリゲーション：J-News での報告。

4) 研究集會の後援

○研究集會が IUFRO-J の目的に沿い、後援内容が経費の支出をとまわらない広報支援を行う。主催者からの申請にもとづいて、事務局で後援を決定、実施し機関代表會議に報告する。

5) GFIS-Japan Workshop への対応

GFIS-Japan ワークショップへの対応について (事務局説明)

Global Forest Information Service (GFIS) 事務局は、GFIS を普及し参画を促すため、これまでインドネシア (CIFOR, 2003.12), マレーシア (FRIM, 2004.8), 中国 (CAF, 2006.10, 2011.11), ロシア (SFTA, 2010.11) 等でトレーニングワークショップを開催してきている。今回、GFIS 事務局は、ワークショップの日本開催を要望しており、IUFRO-J としての対応を検討する必要がある。

・経緯

1. 2012 年 8 月 31 日に中国広州市で開催された APAFRI 総会に出席した森林総研大河内理事が GFIS アジア・ロシア地域コーディネーターである Ho Sang Kang 博士より、GFIS-Japan Workshop の 2012 年中の開催について打診を受けた。

2. ワークショップの主旨は、日本から GFIS への情報提供が少なく、情報プロバイダーとしての参加を促すため、トレーニングワークショップを開催したいというもの。

3. IUFRO-J 事務局と Ho Sang Kang 博士の間で意見交換を行い、最終的に 2012 年中の開催は困難と判断し、次年度へ延期となった。その際、ワークショップ対応については、代表者會議で検討することとした。

・ワークショップの内容

日程：1 日 (9:00-17:00)。遠方の参加者は 2 泊 3 日を要する。

予算：USD 10,000 (国内参加者の旅費支援可)

内容：GFIS 事務局より、情報共有と組織化、GFIS プラットフォームの利用について説明。情報プロバイダー登録、ユーザーアカウントの作成と情報の提供の仕方 (メタデータの作成) についてコンピュータを使って実習的に学ぶ。

上記について後藤 IUFRO-J 事務局幹事の説明に続き、鈴木議長が、「GFIS は IUFRO の重要な活動であるため、GFIS および GFIS-Japan ワークショップへの積極的な参加を検討して欲しい。」という呼びかけをおこなった。会場から、GFIS 参画に要する費用について質問があり、各機関のウェブサイト更新情報を GFIS に送信するプログラムの設定は必要であるが登録費のような負担はないことを事務局から説明した。

それぞれの機関において、GFIS および GFIS-Japan ワークショップへの参加を検討し、平成 25 年 4 月末までに IUFRO-J 事務局に参加の可否を連絡することとなった。

6) 2014 IUFRO 世界大会対応

○世界大会の情報共有

世界大会事務局、IUFRO 本部から、また IUFRO-J 会員から IUFRO-J 事務局に届いた情報を、IUFRO-J News、およびメーリングリストで会員に周知する。

○IUFRO 世界大会に合わせて開催される国際研究集會で、日本に事務局があるものは、研究集會助成の対象となりうる。

議題 5. 平成 24 年度予算案

予算案立案の基本的な考え方

○単年度収支に心がける。

1. 一般会計予算案

【収入】

科目	予算	備考
前年度繰越金	1,325,639	
会費 A 会員	584,000	23 機関 (584 名)
B 会員	57,000	前 12 機関 (9 口 + 12 名)
C 会員	25,000	25 名
24 年度未収分	132,000	2/28 現在
次年度前納	1,000	
雑収入	1,000	利息
単年度収入小計	800,000	
合計	2,125,639	

【支出】

科目	予算	備考
情報活動費	426,500	J-News 印刷費 (No.109,110,111) 送料・通信費
内訳 J-News 109 印刷	125,000	
J-News 110 印刷	125,000	
J-News 111 印刷	125,000	
J-News 送料	50,000	
通信費	1,500	封筒, 切手代
会議費	30,000	平成 25 年度機関代表会議 (岩手大学)
旅費 役員会出席	300,000	
雑費	10,000	振り込み手数料, 送金手数料
助成	400,000	H25 年度助成 200,000 円 × 2 件
単年度支出小計	1,166,500	
予備費	959,139	
合計	2,125,639	

議題 6. 役員選出, 承認

平成 25 年度役員候補

役員	氏名	所属	区分	(任期)	[役職による指定]
議長	鈴木 和夫	森林総研	現	(H19 年 4 月～)	[理事長]
監事	阿部 恭久	日本大学	現	(H21 年 4 月～)	
	藤田 和幸	元森林総研	現	(H23 年 4 月～)	
幹事	清野 嘉之	森林総研	現	(H24 年 4 月～)	[林業生産技術研究担当 兼国際研究担当 COD]
	新山 馨	森林総研	新	(H25 年 4 月～)	[国際連携推進拠点長]
主事	藤間 剛	森林総研	現	(H18 年 4 月～)	[国際研究推進室長]

議長、幹事および監事は機関代表会議で選出、主事は議長が委嘱。(会則第 11 条)

任期は 2 年、再任は妨げない。(会則第 12 条)

【参考】

IUFRO 国際評議員会日本代表

代表 大河内 勇 (森林総研)

代表代理 酒井 秀夫 (東京大学)

IUFRO 役員 (2010 ~ 2015)

第 3 部会 Deputy Coordinator

酒井 秀夫 (東京大学)

第 6 部会 Deputy Coordinator

伊藤 太一 (筑波大学)

その他

森林総合研究所の大河内理事より、APAFRI (アジア・太平洋地域林業研究機関連合) について、次の説明と呼びかけを行った。APAFRI は IUFRO と連携関係にあり IUFRO の地域組織としてアジアおよび太平洋地域で重要な役割を担っているにも係わらず、日本からは森林総合研究所と国際農林水産業研究センター (JIRCAS) の 2 機関しか加盟していない。他国からは大学も多く加盟しているため、アジア・太平洋地域で継続的な研究を実施している大学や研究機関は、APAFRI への参加を検討いただきたい。

事務局からのお知らせ

1. 2014 IUFRO World Congress 関連情報

第24回 IUFRO 世界大会 “Sustaining Forests, Sustaining People The Role of Research” が2014年10月5-11日にアメリカ、ソルトレークシティで開催されます。

講演要旨登録 2013年7月から10月

参加登録受付 2013年11月から

最新情報は <http://iufro2014.com/> に掲載されています。

同世界大会で、IUFRO-J 会員がオーガナイズする Technical Session には、次の課題があります。

Forests and human health: The role of research towards evidence-based practice

Innovative planning and managing approaches for sustainable tourism in forests and natural areas

Forest ecosystem services contributing to agriculture

Ecology and dynamics of dead wood dependent species at multiple trophic levels — Promoting natural pest control in managed forests or increasing hazards?

Radioactive contamination in forest ecosystems and safe uses of forest products

Advances in forest carbon measurements and monitoring for building REDD+ MRV systems

Understanding the relationships among biodiversity, carbon, and people for REDD+ forests: The importance of environmental and social safeguards

上記セッションの概要など、IUFRO 世界大会に関する情報で、IUFRO-J 会員で共有したいものがございましたら、IUFRO-J 事務局にお知らせいただければ幸いです。

2. GFIS-Japan Training Workshop について

平成25年度 IUFRO-J 機関代表会議の議論を踏まえ、複数の IUFRO-J 参画機関が GFIS への参加を表明したことから、IUFRO-J 事務局では同ワークショップを日本で開催すべく、GFIS 事務局との調整を行いました。

2013年6月18日、GFIS Regional Coordinator Asia & Russia の Ho Sang Kang 博士（ソウル国立大学准教授）が、森林総研内を訪問し、GFIS Training workshop の日本開催（GFIS Japan Training workshop）に向けた打合せをおこない、同ワークショップを下記のように開催すべく準備を進めています。興味がある方は IUFRO-J 事務局宛、ご連絡下さい。

目的：日本国内の GFIS 情報提供者、情報利用者を増やす。

会場：森林総合研究所

日時：10月24日午後、25日午前

（国内遠方でも一泊二日で参加できます。）

参加者 20-30名 一機関から2名の参加者が望ましい。

参加者に求められる能力

各機関の広報に関する方針および技術的な知識

各機関のウェブサイト管理

RSS 2.0, Dublin Core Metadata Initiative, XML など

3. 2019 IUFRO World Congress 開催地決定

2019年10月に予定されている第25回の IUFRO 世界大会の開催地は、ブラジル、パラナ州の州都クリチバ市に決まりました。（本誌 P1-3 に同じ州で開催された IUFRO 国際研究集会 PAPM2013 の記録を掲載しています。）

IUFRO-J News No. 109 平成25年7月24日

国際森林研究機関連合 - 日本委員会事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

〔編集・発行〕